

テーマ 消化器疾患 平成25年度漢方医学講座・臨床講座

炎症性腸疾患の 診断と治療

東京慈恵会医科大学 消化器・肝臓内科

松岡 美佳

(平成25年11月10日収録)

炎症性腸疾患IBD(Inflammatory Bowel Disease)とは

■絶食の歌

『絶食の歌』という曲があります。歌詞は「カレーライス食いてえ、ラーメン食いてえ、カツ丼食いてえ、オムライスあたまらない…」食べ物への強い欲望を延々と歌いあげます。「先生何とかして、看護婦さん話を聴いてくれ」と続いて、最後の4番が「粉末飲みたくねえ、バリウム飲みたくねえ、注射痛いよう、胃カメラああ苦しいよう…」

これは20年程前に炎症性腸疾患の患者さんが作った曲で、入院中の仲間で「絶食ブラザース」というバンドを組みCDを発売しました。彼らの活動がテレビのドキュメンタリー番組で放送され、こんな病気で苦しんでいる若者たちがいるのかと反響を呼びました。

■潰瘍性大腸炎とクローン病

炎症性腸疾患IBD(Inflammatory Bowel Disease)には、潰瘍性大腸炎とクローン病という2つの疾患があります。原因不明で、治療法が未確定であり、経過が慢性で経済的・精神的な負担が大きい病気であることから、厚労省が定めている特定疾患(難病)に指定されています。現在この特定疾患130疾患のうち、治療が極めて困難で医療費が高額である56疾患が公費負担の対象となっています。潰瘍性大腸炎とクローン病はこの公費負担の対象に

指定されている難病です。

IBDの特徴

■病因

IBDの病因について様々な研究が進んではいますが、まだはっきりとしたことはわかっていません。遺伝的素因・環境因子に加え、さまざまな免疫異常が絡んで発症するのではないかとわれています。

■好発年齢

好発年齢は10代から30代の若者です。この年齢は受験、就職、結婚、妊娠と人生のイベントが非常に多い時期ですので、IBDの発症はその人の人生に大きな影響を与えてしまいます。

■病気の経過

IBDは多くの場合再燃と寛解を繰り返すのが特徴です。そのため患者さんのQOLは非常に阻害されてしまいます。あるアンケート調査では、IBDが他人との親密な関係を妨げていると感じたり、IBDのために差別的な扱いを受けていると感じる人が多くいるという結果でした。健康面だけでなく精神面、社会生活におけるQOLを大きく低下させる疾患であるといえます。

■患者数の推移

IBDの患者数は全国的に急増しています。1970年代には潰瘍性大腸炎とクローン病をあわせても数千人のレベルでしたが、2014年のデータでは、潰瘍性大腸炎が17万人、クローン病が4万人を超えています。今や専門医療施設に限らず、一般病院や診療所の先生方がIBD診療にあたる機会も決して稀ではない時代になりました(図1、2)。

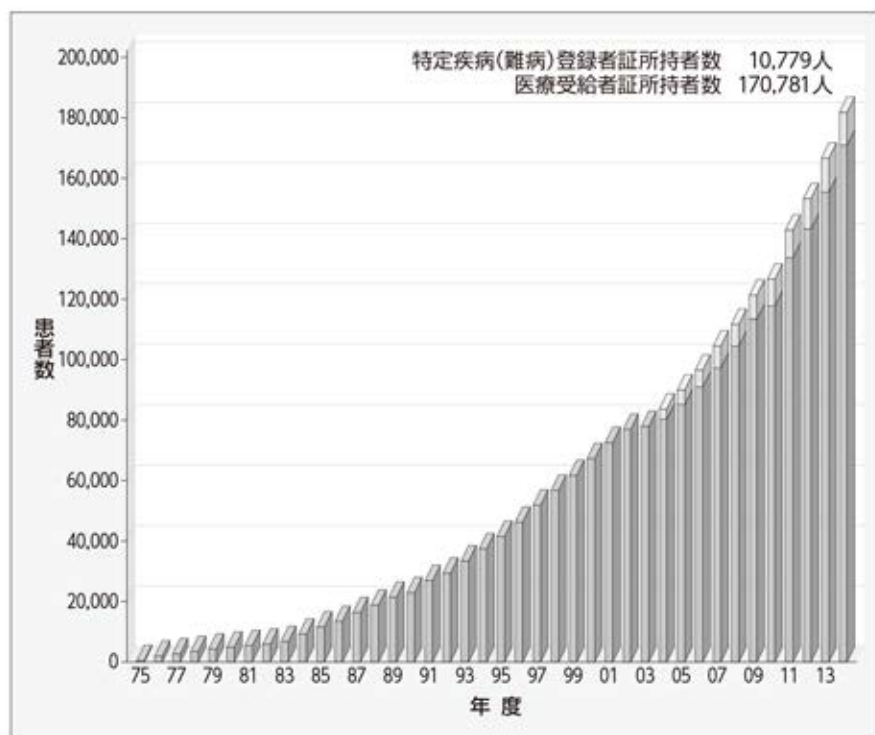


図1 潰瘍性大腸炎の年度別患者数の推移 (難治性炎症性腸管障害に関する調査研究(鈴木班))

■潰瘍性大腸炎とクローン病の違い

潰瘍性大腸炎とクローン病、どちらも腸管を冒す疾患ですが、病変の分布が大きく違います。クローン病は口から肛門まで、全消化管を非連続性に冒す病気です。一方、潰瘍性大腸炎で障害される部位は基本的に大腸のみです。病変は必ず直腸から連続して口側大腸に分布しています。

潰瘍性大腸炎の診断

■臨床症状

特徴的な症状は持続性または反復性の粘血・血便です。粘血というのは